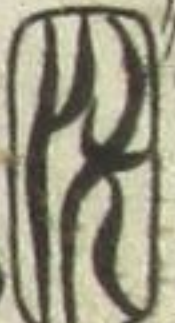


杖桑銘
將傳



緒言
此杖子ハ開闢以來空國の名物
君臣の臣を流し其道の士の志を
を附し一也の年経たる
筆の以て描中たる極白き杖あり
故に古名杖の端を知らんと欲せば
子なるに杖の解あらむ
角の志

邊田又高志



クニトコクノ命
スサノヲノ命



イザナギノ命

イザナミノ命

年種虫



道臣命ハ
神武天皇
東夷を
たひらびた
時の元帥あり
本朝武將の権あり





武津つ川が別べつの
 崇神天皇の
 時とき印いん綬じゆを
 ばぬつて
 四道將軍の内
 東海將軍とある



大彦命の
 崇神天皇の四道
 將軍をかきたぬとき
 北陸道將軍とある





上毛野
八綱田
垂仁

△天皇の時
狭穂彦むね
則ち勅を

△受てこれ
と討城を
やま
○狭穂彦
を死斃



日本武命ハ景行天皇
の皇子あり年十六の
時筑紫をなむらび
又蝦夷伊
勢ふ至り。

○是を
又天
のわり
冥神
ある
りへ



田道^の仁^の徳^の天皇^のの^時新^羅を^討て

功^{あり}其^後蝦^夷を^討て

毒^多く

死^せ其^其矣^の化^と蛇^と

あ^たり

上



武^内宿^禰の^祖紀^氏

仁^徳天^皇の^間六^朝ふ^仕ふ^寿三^百余

く^はを^せこ^みて

降^を韓^三

才^其間^神功^皇后^不

下



大伴金村
仁賢天
皇景駕の後
平部真鳥及び
其子齋を誅す武烈
帝の時大連とある其後継体
天皇とありて越前ふかひて
こきも立る



物部守屋ハ
用明
天皇
崩ト
て
後穴穂
皇子立んと
馬子皇子守屋を
とる

阿部比羅夫
 齊明天皇の
 き蝦夷を伐
 ち之
 又肅慎をうち
 生熊の皮若干を
 得たり



中臣鎌
 足の皇極齊明天皇の
 とき中大兄皇子五属
 いりるをまらす





村國男振へ天武天皇の
 軍將あり
 壬辰の乱に
 大友
 皇子の
 兵を
 瀬田
 を
 せめて是に勝て
 其功大あり

十



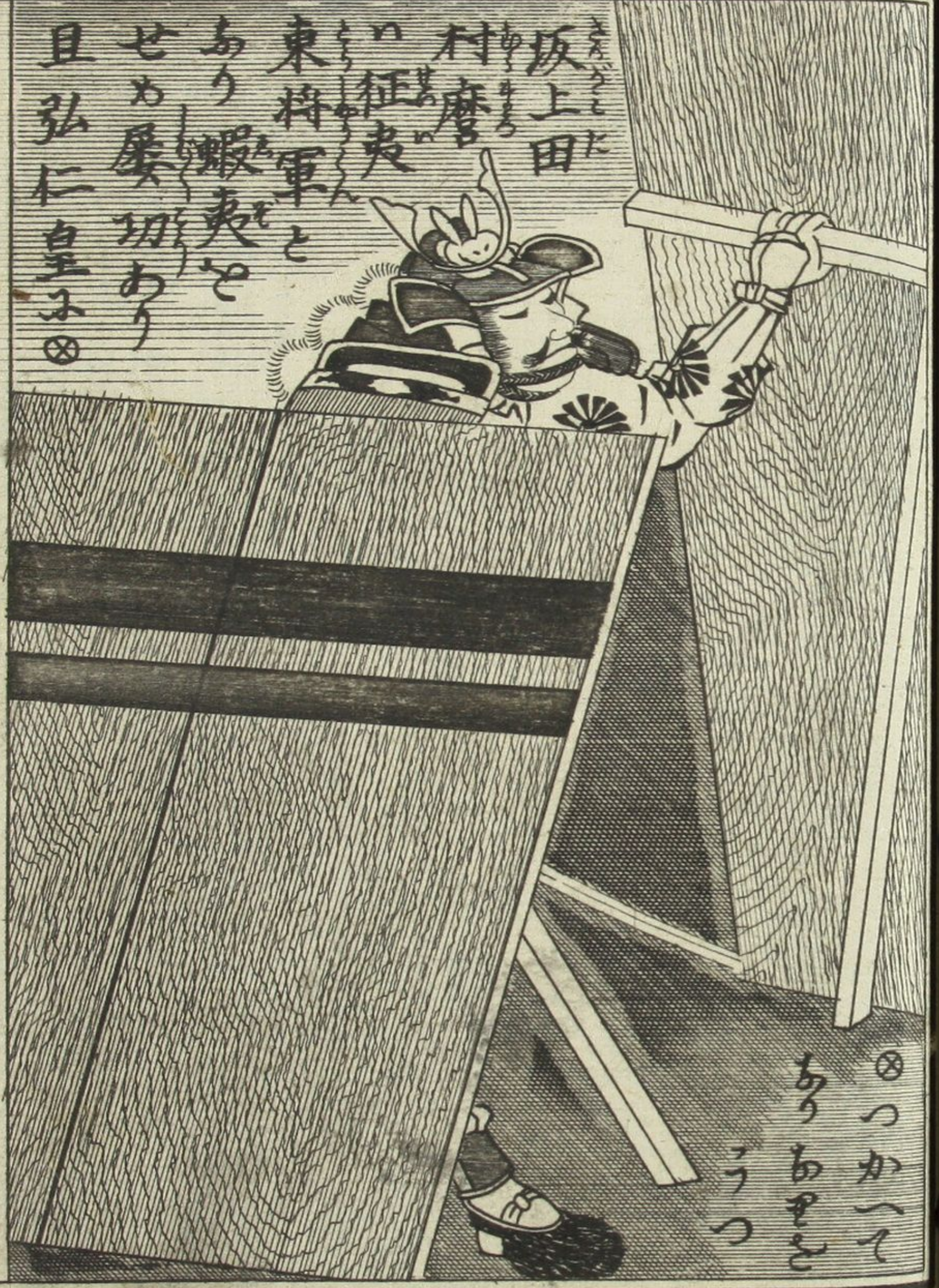
高市王
 子大友大
 友皇子とたかひ
 時大友の軍せあり
 大功あり



藤原藏
 下麻呂の
 孝謙帝のとき
 惠美押勝江州を反りて是を討つむ利あり
 らん鑑下急を進で押勝を撃つてこきせきり



佐伯常人の聖武天皇の
 時ふぢ
 廣次
 筑前
 逆ら
 常人廣次
 兵をか
 討つ



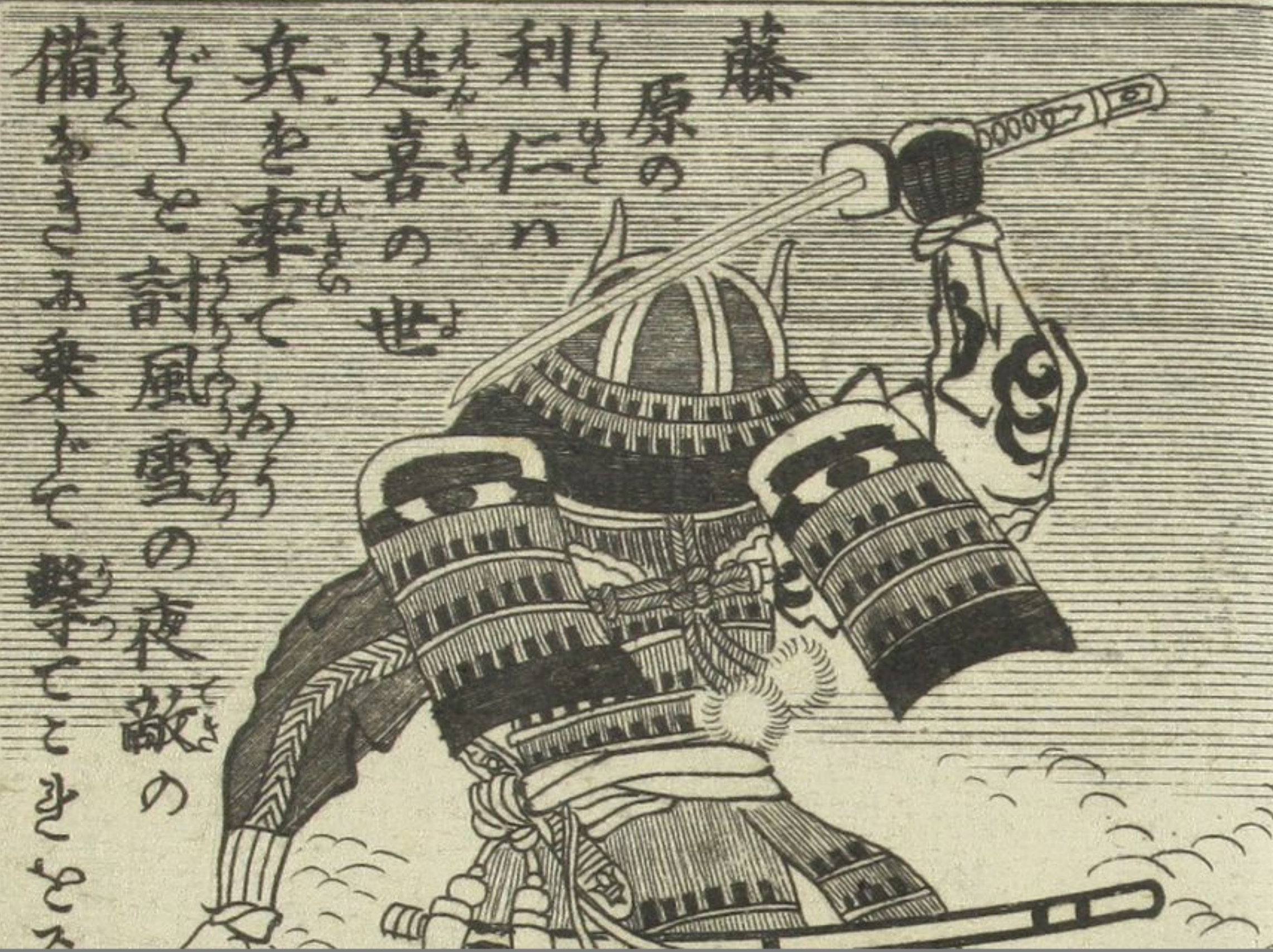
且弘仁皇太子
 せむ屋切あり
 あり蝦夷と
 東將軍と
 の征夷
 村磨
 坂上田

①のかへて
 ありあやと
 うつ

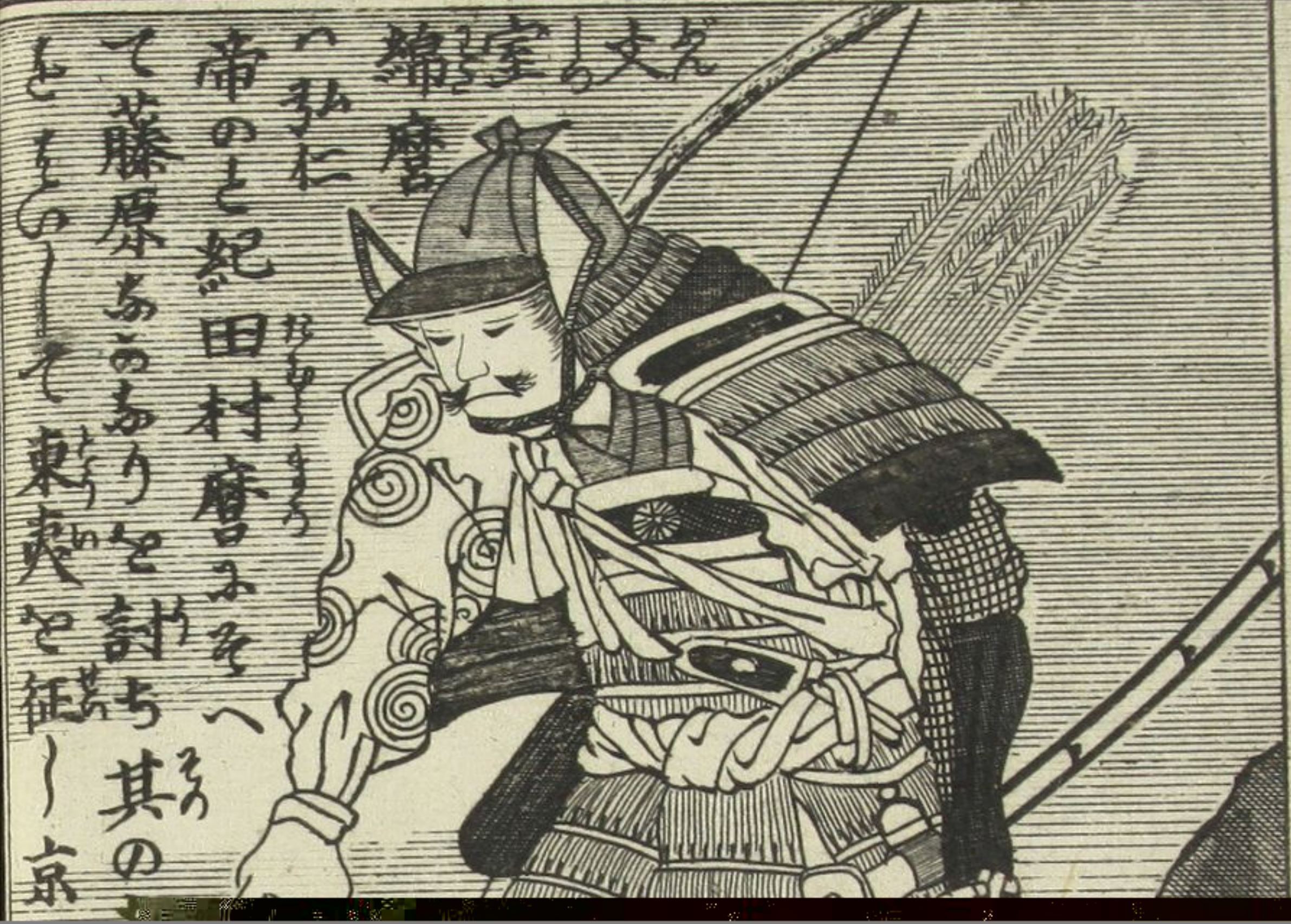


坂上田麻呂の
 田村麻呂の父あり
 押勝謀逆の時高
 野帝の命を受けて○

ころす正四位下陸奥鎮
 守府將軍とある
 ○かのかの子を射



藤原の
利仁の
延喜の世
兵を率て
かくを討
備あきふ



文久の
室の
綿磨
弘仁
帝のと紀田村磨ふをへ
て藤原ありを討ち其の
とをいしそ東夷を征し京



平将門
 兵を
 のとき
 帝
 盛
 平貞盛

△たかひ
 矢をえあつて
 誅す



藤原忠文の將門純友反逆の
 とき追討使の詔を
 かふ
 あり
 あり
 頼
 あらあ

賞
 あり
 ぞら



橘遠保ハ官兵と
 藤原純友
 とぶす
 とをきこ
 とを
 こみす
 先祖あり
 橘まき
 づの



秀郷
 斬るを
 其くびと
 得て
 武名
 天下
 あら
 す



功あり
 所皆
 南海西海
 原純友を征む
 將を統て藤
 をんいして諸
 乱ふ追討使長官
 小野好古の天慶の



源
 清和天皇の孫
 桃園親王の子
 あり六孫王と号す承平の年中をやく將門
 と反を知り討使を拜して東征をまこ好古と
 征む
 純友
 共





源頼信の
清和
源氏の
嫡流なり
平の
忠常を
下總の
田はわ
時素

知りて先驅
深淺と

△是なり
△忠常大
かどろき
かそ
たき
たけ
◎海をまたり
諸率



源
頼光の
仲の
長子
著名最も
著ある
鎮守府

◎將軍とあり
伊吹山の
伏誅一市原
の鬼童丸
が首と



源美家の子あり
 勇氣
 騎射

▲みき
 ぐひて奥州
 討つと誅

○其後武衛
 討ち平らぐ源
 の家

大郎
 是き
 嫡流
 八幡



源頼
 義の
 信の
 子あり永義年
 中東夷屢叛く頼
 義陸奥守不任と鎮
 守府將軍ふも

⊕首長安
 部頼とき
 其子ハ〇

貞任をうち
 のち伊豫守と
 ある



源美満の新羅三郎と
 号は奥州におもむく
 兄義家も属して武衡
 家とらち軍功あり
 喜びて
 騎射の礼式を
 知る

其子
 そん世ふ
 つま



清原武のの兵
 と率しと出陣する

源頼義とたす
 け以て責任とやがる

来り



平正盛の平族の後あり
 命をたてまのり源美
 親とりのつとき
 康和年中



藤原清衡の民衡
 家衡の命
 と拒じ
 のとき
 家美
 不属と
 軍勇あり
 成功の後美家清衡
 附する陸奥のとき



平清盛の保元
 平治の乱又源氏と
 争ひつて為す
 事とを
 示す



源朝美の家
 の子多し大條判官
 と号す常々京都
 在て南都の
 蜂起の群僧の
 十余人の

兵と率て
 こゝを去り
 ぞりり



源為朝ハ
 の八男あり
 曾々鎮
 西
 保元の
 乱ニ崇神帝
 上皇南狩シ。

伊豆の
 大の
 自り
 射て
 殺す

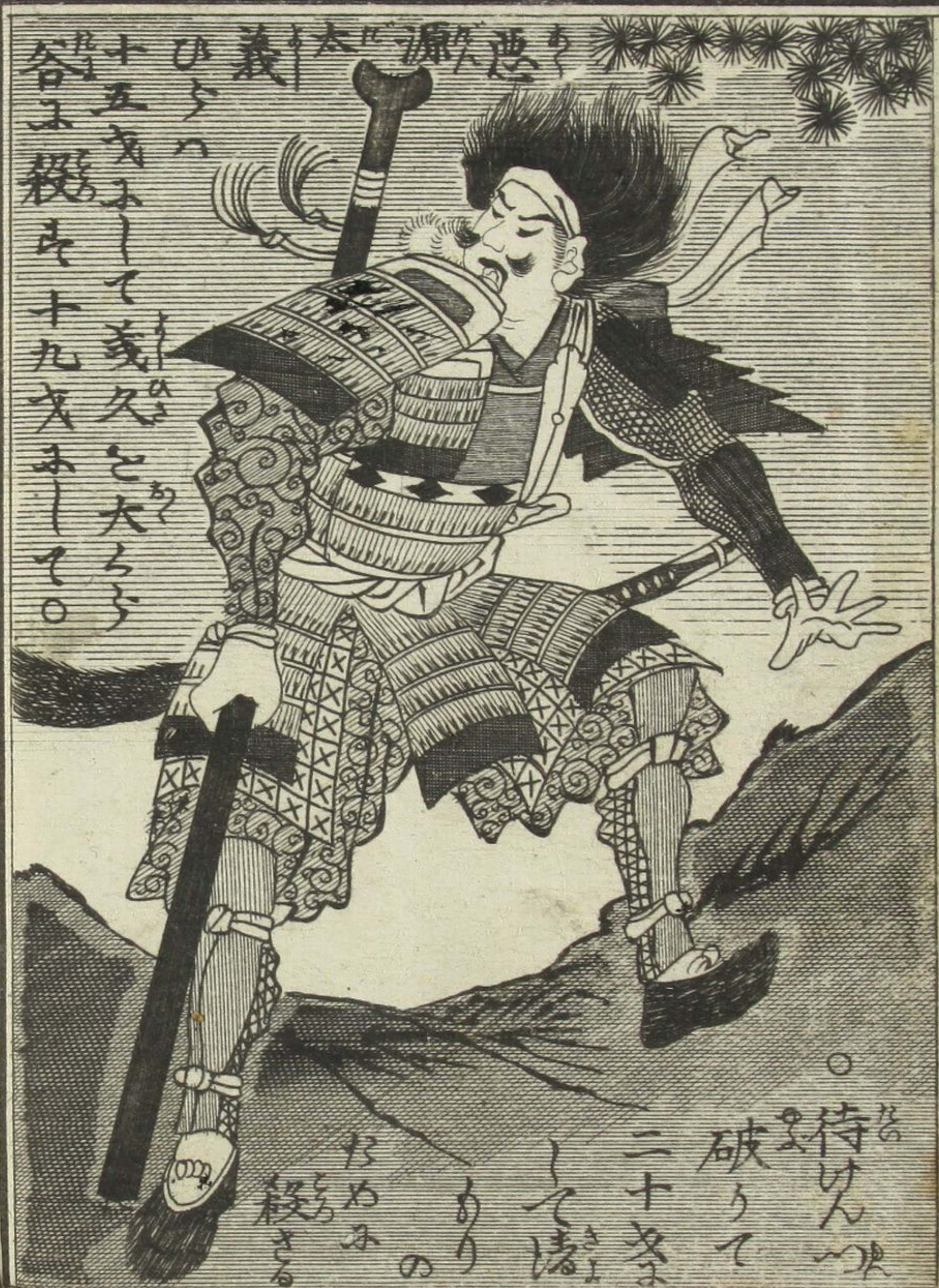


源義朝
 源義朝の父あり。
 保元の
 乱ニ戦
 功あり。

△東海道
 諸州の士卒
 とまきうす

三

三



明治十七年十一月四日御届
全 十八年一月出版

定價格八錢

編輯兼
出版人

木村文三郎

日本橋区馬喰町二丁目
壹番地

發兌書肆

文江堂



